

令和4年（2022年）の海徳海山の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

8月18日及び19日に変色水を確認したとの通報が8月19日にありました。以降も噴火は認められないものの、引き続き変色水が認められたことから、活発な火山活動が継続していたと考えられます。

○ 噴火警報・予報の状況、2022年の発表履歴

8月23日20時00分	噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報（周辺海域警戒）を発表
-------------	---------------------------------------

○ 2022年の活動概況

・ 8月17日以前の状況

2022年7月11日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、変色水等の特異事象は認められませんでした。

・ 8月18日以降の状況

海徳海山付近で、8月18日及び19日に変色水を確認したとの通報が8月19日にありました。

8月23日以降、11月25日までに海上保安庁が実施した上空からの観測でも、海徳海山で変色水が認められ、活発な火山活動が継続しました。8月23日及び11月25日に海上保安庁が実施した上空からの観測の結果を比較すると、変色水の湧出域の拡大がみられ、湧出する変色水がより濃厚になっていることから、火山活動がさらに活発化した可能性があります。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は、海上保安庁及び海上自衛隊のデータを利用して作成しています。

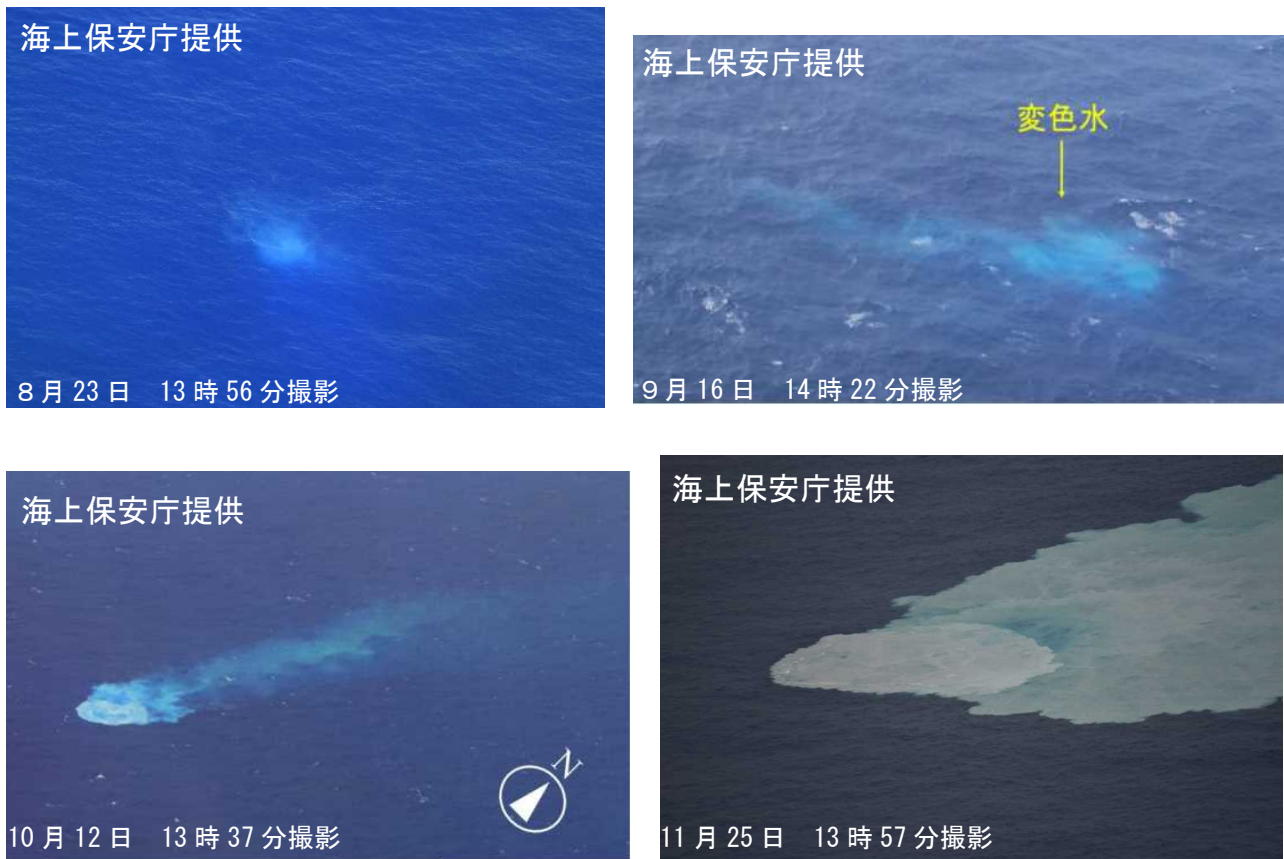


図1 海徳海山 8月23日以降の状況

- ・ 8月23日以降に海上保安庁が実施した上空からの観測では、変色水が認められました。
- ・ 8月23日（左上）と11月25日（右下）に観測された結果を比較すると、変色水の湧出域の拡大がみられ、湧出する変色水がより濃厚になっていることから、火山活動がさらに活発化した可能性があります。

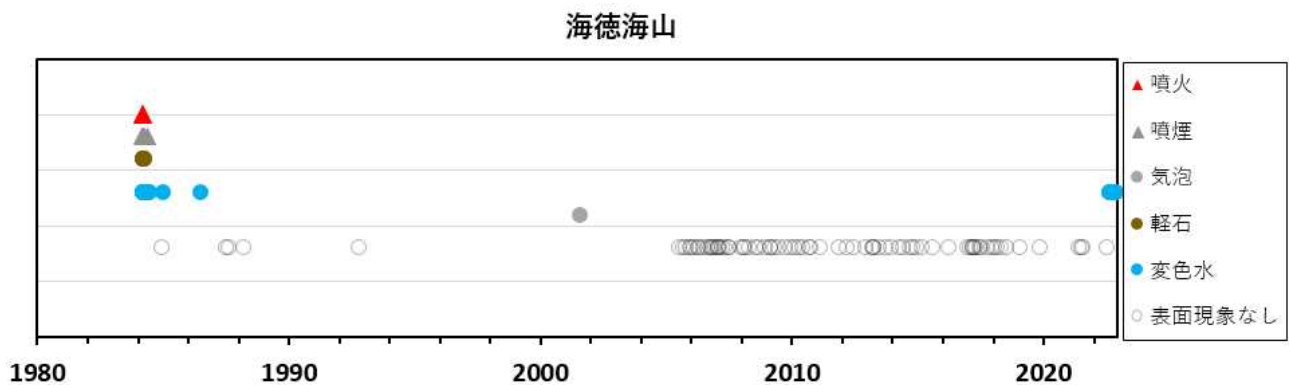


図2 海徳海山 1980年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。▲及び△はそれぞれ噴火及び噴煙（1984年）を示します。●及び●はそれぞれ変色水及び軽石が認められた観測、●は気泡が認められた観測、○は変色水等が認められなかった観測を示します。

海上保安庁、海上自衛隊、気象庁の観測及び漁船、報道機関等からの情報による。

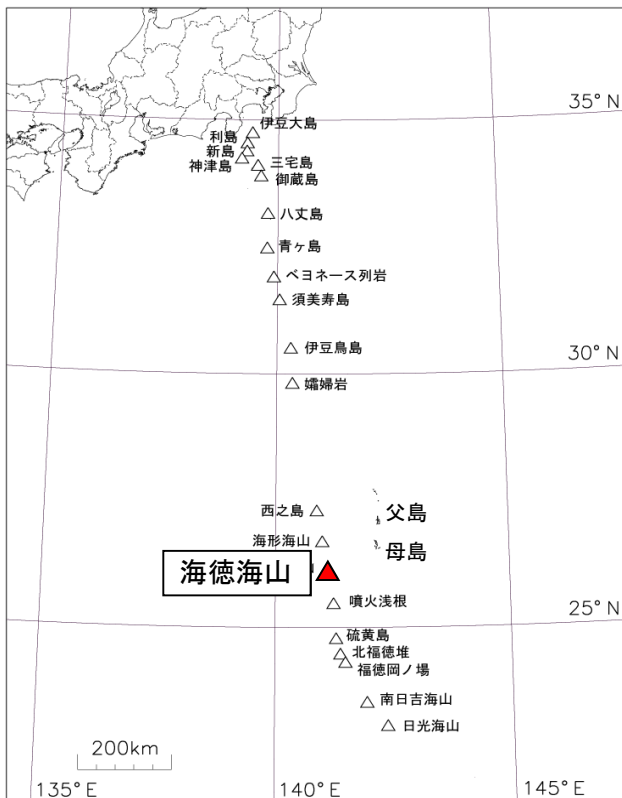


図3 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び海德海山の位置図

海德海山は、東京の南約1,050 km、小笠原諸島母島の南西約120kmに位置します。